

災害大国日本を支えるのは誰だ！？

暮らしを守る



インフラメンテナンス  
業界の明るい未来

東亜グラウト工業株式会社

問題解決に向けた技術などを紹介



動画QR

決に向けた  
紹介。問題解  
な約7%）  
約4万キ  
50年を経過した老朽管路の割合

動画「インフラメンテナンスの未来を語る」を公開した。  
動画内では、同社の山口乃理夫・代表取締役社長が、アナウンサーの野嶋紗己子さんを相手に、「我々は自然災害リスクの高い国に住んでいる」として、ゲリラ豪雨の発生回数や土砂災害の発生件数、下水道管の総延長（約50万キ）の中の耐用年数50年を経過した老朽管路の割合（約4万キ）（約7%）などを紹介。問題解決に向けた

インフラメンテの未来  
テーマに新作動画公開

東亜グラウト  
工業

技術の一例として、道路を掘らずに老朽化した下水道管を甕らせる管更生技術や衛星による漏水検知技術、ドローンによる下水道管内調査・斜面調査などを紹介している。

さらに人手不足については「AIやDXの活用により、将来的に人は足りるようになるのではないか。インフラの更新や改築などの省人化のビジネスモデルを作ることができれば、今度では世界で戦えるようになる」と解説したほか、「我々の業界も新4K（希望がある・カッコいい・給料が高い・休暇がとれる）を目指していかないといけない。最先端の技術を探り入れていくことで必ず憧れる業界になる」とコメントしている。

水道産業新聞

2026年（令和8年）1月8日付